

女性の政治参画につながる 主権者教育

～子供から大人へ、そして地域へ～

KOMON

大澤 浩子(さいたま市) 大野 伸恵(横瀬町) 神尾 英美(戸田市)
野本 怜子(さいたま市) 松川 武美(八潮市)

主権者教育とは・・・国や社会の問題を自分の問題として捉え、自ら考え、自ら判断し、行動していく主権者像を育む教育（総務省より）

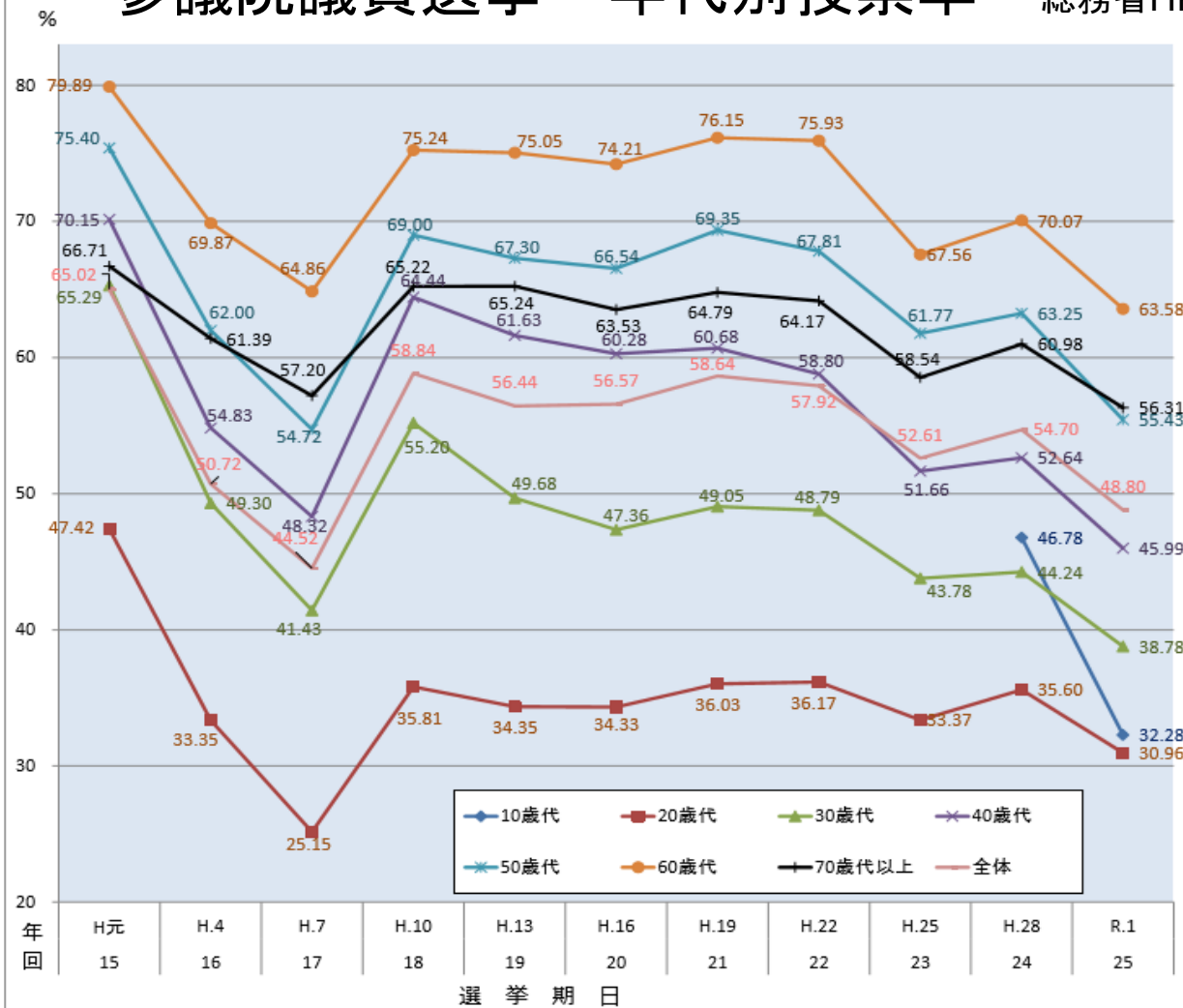
社会に対する**関心**を持ち、自分の**主張**を持つようにすること

発表の流れ

- 【1】問題 ①若者の低投票率 ②女性の政治家が少ない
- 【2】原因・・・主権者意識の低さの現れ ⇒主権者教育に注目
- 【3】現場検証・・・①さいたま市立中学校・高等学校へインタビュー
②戸田市立中学校へインタビュー
③現職女性議員へのインタビュー
- 【4】見えてきた課題
- 【5】私たちのできること

1. 問題① 若者の低投票率

参議院議員選挙 年代別投票率 総務省HPより



10代、20代の低さが際立つ

60代
70代以上
50代
全体
40代
30代
10代
20代

$$60代人口 \quad 1610万人$$

$$\times$$

$$63\%$$

$$= 1014万人$$

$$20代人口 \quad 1260万人$$

$$\times$$

$$30\%$$

$$= 378万人$$

2. 問題② 女性の政治家の少なさ



政治分野における 男女共同参画の推進に関する法律

～男女の候補者の数ができる限り均等となることを目指す法律ができました～

法律の概要

(平成30年5月23日公布・施行)

目的

政治分野における男女共同参画を効果的かつ積極的に推進し、男女が共同して参画する民主政治の発展に寄与すること

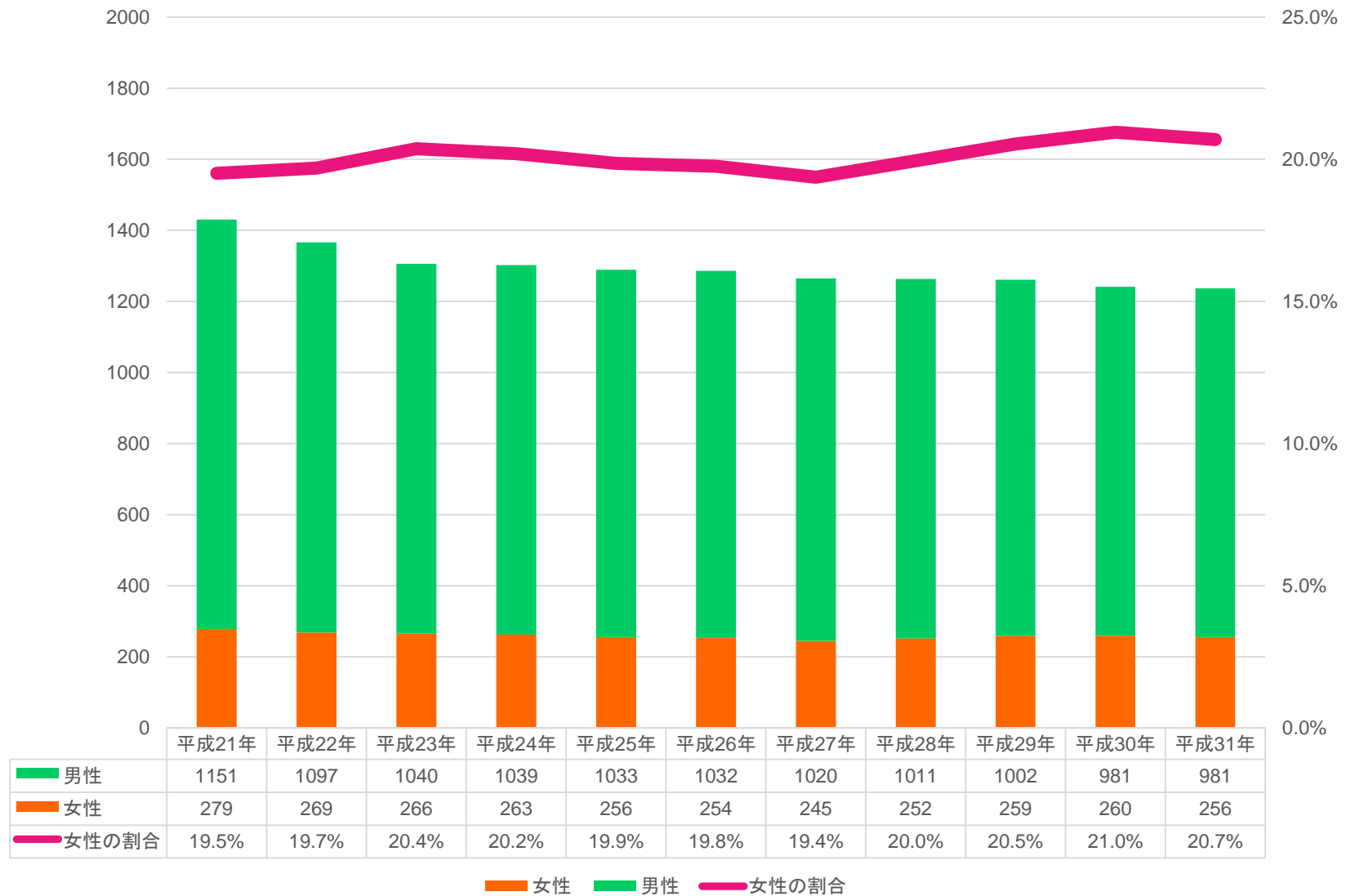
基本原則

- ① 衆議院、参議院及び地方議会の議員の選挙において、男女の候補者の数ができる限り均等となることを目指して行われること
- ② 男女がその個性と能力を十分に発揮できること
- ③ 家庭生活との円滑かつ継続的な両立が可能となること

責務等

- ① 国・地方公共団体は、政党等の政治活動の自由及び選挙の公正を確保しつつ、必要な施策を策定し、実施するよう努める
(実態の調査及び情報収集等、啓発活動、環境整備、人材の育成等)
- ② 政党等は、所属する男女のそれぞれの公職の候補者の数について目標を定める等、自主的に取り組むよう努める

埼玉県市町村議会の状況



20%

埼玉県HPより

3. 教育現場へのインタビュー

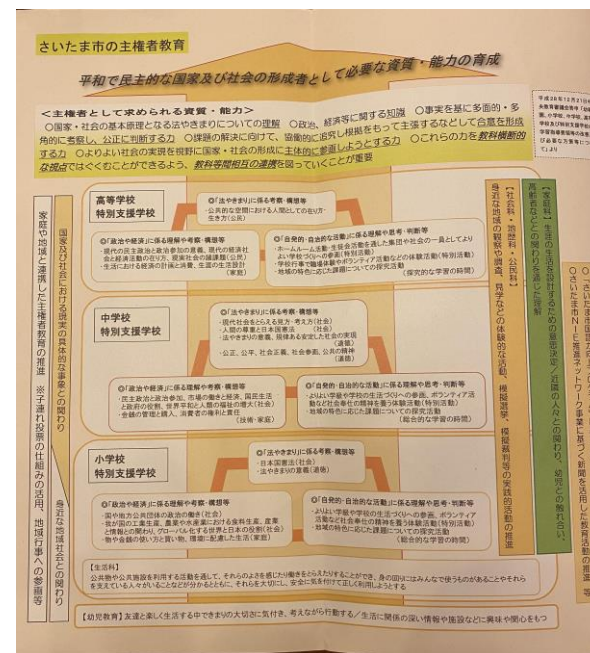
さいたま市

◆ インタビュー① さいたま市教育委員会

特徴 * 小学校・中学校・高校それぞれの発達段階に合わせた主権者教育

* 社会科以外の科目でも行い、教科横断的に主権者意識を醸成

1. トライする(体験活動)
2. 話し合う
3. 本物に触れる(実社会とつながる)
4. 「18歳」を見通す



インタビュー② さいたま市立大宮北高校

2019年12月10日視察

模擬投票 政党のマニフェスト(令和元年参議院議員選挙) 本物の投票箱、投票用紙

- * 体験はゼロか1かという意味では大きい。いいきっかけにはなるが、子供達どうして政治や社会の話題が多くなったかというところまではいかない。
- * **政治が遠い**。自分達にとってもメリットになることが分かれば変わるのではないか。**現職の議員と触れ合う**などの機会があればよい。
- * 「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」については、**男女問わず良い人**を選べばよいのでどちらでもいい。
(生徒さんのご意見)



インタビュー③ さいたま市立大谷場中学校（モデル校）

2019年12月17日視察

ディベート活動 論題「日本とEUのEPAの是非について」 中1（7時間）

1. 事前に生徒達にアンケートを採る。資料を活用することが得意な生徒が多い一方、地理的事象に関心が低い生徒も多いことが判明。
2. 調べたことや自分の考えを地図や図を用いて発表（**論理的思考力**）
3. ディベートというゲーム的学習で相手の主張にも耳を傾ける
（**多角的に考察、公正に判断する力**）
4. グローバル化した社会の中で日本の未来を考える（**合意形成、意思決定力**）

- * 興味関心に**男女差は感じない**。
家庭環境の方が大きいのではないか。
- * 自分達が行動することで何かが**変わったという**
実体験ができれば良い。
- * 生徒たちは選挙権を得たら、
投票に行ってくれると思う。



戸田市

◆ インタビュー① 戸田市教育委員会 2019.12.16

戸田型PBL(プロジェクト型学習)の考え方

PBLとは

これからの変化の激しい時代を生き抜くためには、**課題解決能力**や**創造力**を通じて、社会に価値を生み出す力が必要である。また、そうした力を発揮する原動力となる社会への**貢献意欲**や**探究心**も欠かせない。PBLは、こうした資質・能力を育てることを目的に、**子供たちが主体的に、仲間と協力しながらプロジェクトや課題解決に取り組む形態**であり、主体的・対話的で深い学びの授業改善を追求した方法の1つである。

戸田市HPより

PBLにおける活動の類型

- ① 課題解決活動
- ② 制作活動
- ③ 探索活動

効果的なPBLの5つのポイント

- 子供主導
- 現実社会とのつながり
- 批評に基づく企画案の推敲
- 産官学民との連携
- 本格的な発表・実践の場

小学校での取り組み



- 「戸田市を良くする」をテーマにした総合学習
- インターネット検索や住民へのインタビューから課題を見つける
- グループごとに課題解決のプロジェクトを企画する
- 保護者など第三者に批評してもらい改善していく

プレゼンテーション大会



- ▶ 体験型学習の発表の場として実施
- ▶ 市内の小中学校の代表者がテーマについて発表する

- ▶ 2019年のテーマ「**私が戸田市長だったら**」
 - ・「ふるさととしての居場所作り」
 - ・「戸田の名産品」
 - ・「投票率アップ」

戸田市の若年層投票率 日本一を目指して

中学校の20代の先生方にインタビュー



市長が変わって、児童館が建てられたことがありました。



国の選挙は誰に投票したらいいか迷ってしまいます。



市長さんは住民にとって身近な仕事をしているね。

仮説

戸田市の若者と政治家が
対話する場をつくり、国の問題
への関心が高まれば、投票率が
上がるのではないかな？

私が市長になったら

政治のスペシャリストと
若者との**対話**を実現

私が市長になったら




←このような機会を生かして

<https://mamasquare.co.jp/4897/>

国会議員・県知事 × 戸田市の若者
市長・市議会議員

テーマ：国のこれからについて

+ α 投票済証明書の活用

- ・TOCOバスの割引券に 
- ・スーパーで使えるクーポン券に
- ・2時間保育(子供を預かる)券に



◆ インタビュー② 戸田市立喜沢中学校 2019.12.21

グループワーク「市長になったら」

班を市長室に見立て**20億の予算**で政策を考える

メンバーそれぞれが担当した政策について考える

- 教材：社会の教科書・タブレット

他の自治体の予算も参考に

グループワーク前後に課題に出した政策案の内容が

濃く具体的なものになった

- 政治分野における男女共同参画推進法

教科書未記載のため取り上げなかった



4. 女性議員へのインタビュー

埼玉県在住の**現職女性議員9名**に聞き取り調査を行った

- 令和元年11月21日(木) 和光市議会議員 2名
- 令和元年11月22日(金) さいたま市議会議員 2名
- 令和元年11月26日(火) 八潮市議会議員 1名
- 令和元年11月27日(水) 羽生市議会議員 1名
- 令和元年11月27日(水) 戸田市議会議員 1名
- 令和元年11月27日(水) 八潮市議会議員 1名
- 令和元年11月27日(水) 横瀬町議会議員 1名



質問①

主権者教育が高校で実施されるようになったことで、政治活動がやりやすくなったか？

はい 3名

- 子どもの通う学校の同級生が議員の仕事に興味を持ってくれた
- 制度として出来たので取り組みやすくなった

いいえ 5名

- 授業時間が少なく成果を感じられない
- 主権者教育自体が周知されていない

無回答 1名

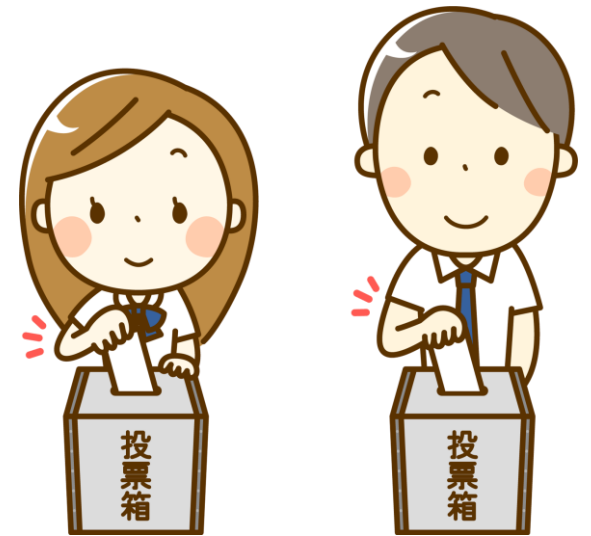
- 議員になりたてで比較ができない



質問②

主権者教育をより良いものにするためには？

- 現職議員を招いて模擬投票をする
- 主権者教育に取り組む授業時間を増やす
- 地域や大人を巻き込めるような取り組み
- 中学生の職業体験やインターンシップ制度を利用して
議員の仕事を経験する
- NIE (Newspaper in Education=教育現場での新聞活用) などの多様な教材を取り入れる



質問③

投票率を上げるためにはどのような制度や取り組みがあればよいか？

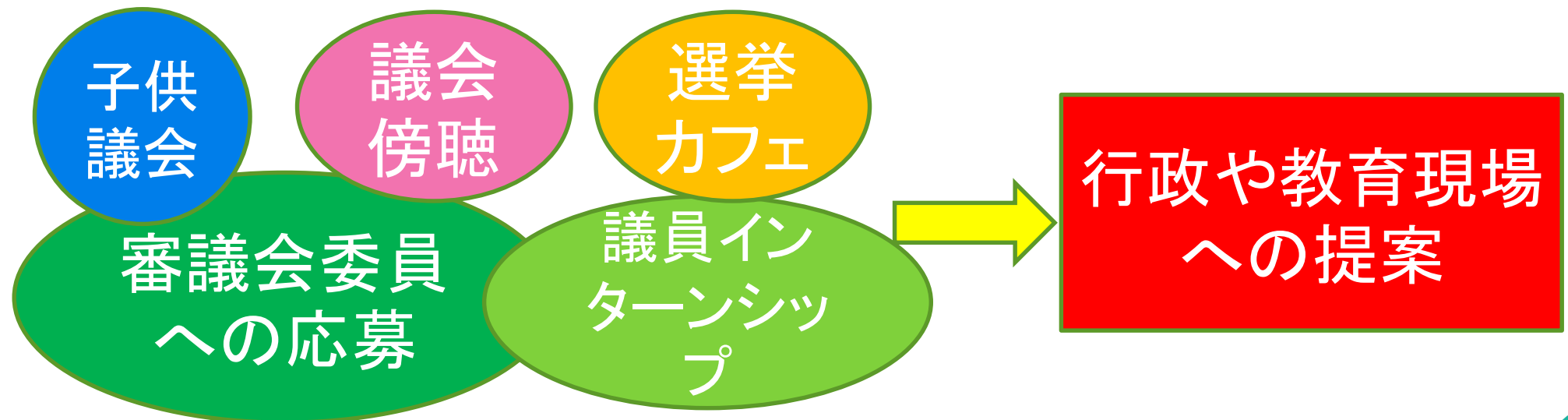
- 投票した人にスイーツ交換券などの特典をもうける
- 投票しなかった人に対してペナルティを課す制度
- 家庭で選挙について子どもと話し合う機会をつくる
- 子供と一緒に投票所に行き一票の大切さを理解してもらう
- 公民館等の公共施設で、**大人から子供まで誰でも気軽に参加できる**主権者教育プログラム

5. 見えてきた課題

- * 授業時間数が足りない
- * 主権者意識を持つ若年層の育成は進んでいるが
政治や投票につながっていない
- * 学校間・地域間で取り組みに差がある⇒共通の
プログラムの必要性
- * 親世代の意識を変える場が足りない
- * 「政治分野における男女共同参画の推進に関する
法律」は、指導要領に載っていないため授業で
は触れられていない

6. まとめ

- * 子供から大人へつながり、地域へ広げる
 - ・子供たちを社会の現場に連れ出しコミュニティの一員であることを体感できる取り組みを増やす
 - ・子供と大人が地域について一緒に考える機会を作る
 - ・子供の意見を取り入れる社会を目指す
- * 具体的に地域のリーダーとして取り組みます



女性の政治参画
が少ない

若者の投票率
が低い

現状



主権者教育



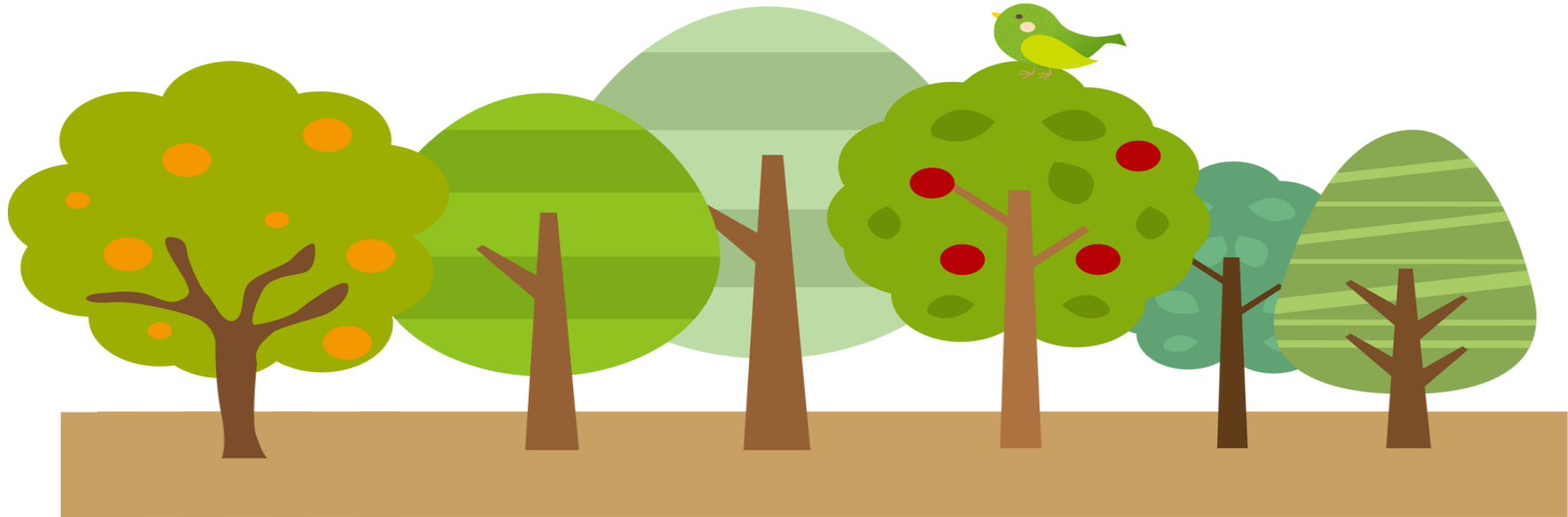
子どもたち

社会の意識

近い将来

女性の政治参画

投票率アップ



住みやすい社会

男女共同参画